

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉

—マイノリティ・ボイス=少数派の声—



サンドラの週末

© Les Films du Fleuve - Archipel 35 - Bim Distribution - Eyeworks - RTBF(Télévisions, belge) - France 2 Cinéma

第33回上映会

2016年 **3月20日** [日] 13:30~16:00 (開場 13:00)

場所 **国立民族学博物館 講堂** **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 **450名** 入場整理券を11:00から本館2階 観覧券売場にて配布します。事前申込は不要です。

主催 **国立民族学博物館**

Deux jours, une nuit

2014年/ベルギー・フランス・イタリア合作/95分/フランス語
日本語字幕付き

監督/ジャン=ピエール&リュック・ダルデンヌ

主演/マリオン・コティヤール ファブリツィオ・ロンジョーネ

司会 **松尾瑞穂** (国立民族学博物館 先端人類科学研究部・准教授)

解説 **宮下隆二** (作家)

鈴木 紀 (国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

お問い合わせ **国立民族学博物館 企画課博物館事業係** 〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL. 06-6878-8210 (土日祝を除く9:00~17:00) <http://www.minpaku.ac.jp/>



国立民族学博物館

関西から
文化力
POWER OF CULTURE

みんなく映画会

みんなくワールドシネマ

映像に描かれる〈包摂と自律〉

—マイノリティ・ボイス=少数派の声—

国立民族学博物館では〈包摂と自律〉のテーマにあわせて、研究者による解説付きの上映会「みんなくワールドシネマ」を実施しています。7年目の今期は〈マイノリティ・ボイス=少数派の声〉をキーワードに映画上映を展開していきます。今回はベルギー・フランス・イタリア合作「サンドラの週末」です。ヨーロッパの小都市の小さな会社から突然の解雇を告げられた女性が、最後の猶予に賭けて奔走する週末を通して、様々な立場に立つ労働者と人間同士の信頼について考えていきたいと思えます。

第33回上映会

2016年3月20日(日) 13:30～16:00 (開場13:00)

場所 国立民族学博物館 講堂 **要展示観覧券(一般 420円)**

定員 450名 入場整理券を11:00から本館2階 観覧券売場にて配布します。事前申込は不要です。

主催 国立民族学博物館

サンドラの週末 Deux jours, une nuit

2014年/ベルギー・フランス・イタリア合作/95分/フランス語/日本語字幕付き

監督/ジャン＝ピエール・リュック・ダルデンヌ

主演/マリオン・コティヤール ファブリツィオ・ロンジョーネ

司会 松尾瑞穂 (国立民族学博物館 先端人類科学研究部・准教授)

解説 宮下隆二 (作家)

鈴木 紀 (国立民族学博物館 民族文化研究部・准教授)

映画解説

経済的危機に直面するヨーロッパを背景に、自らの尊厳をかけて立ち上がる女性の孤独な闘いの行方を見届ける人間ドラマ。体調不良で休職していたサンドラは、復帰間近の金曜日に、予期せず解雇を告げられる。交渉の末、サンドラの復職かボーナスかの投票で社員16名の過半数の支持を獲得できれば解雇が撤回されることになった。その週末、献身的な夫や頼もしい友人に後押しされ、すべての同僚の説得に訪ねて回るが、それぞれに事情を抱える彼ら彼女らにも、様々な波紋が広がっていく。「少年と自転車」(ワールドシネマでも2011年に上映)など、社会的に弱い立場に置かれた人たちの声を送り届けてきたダルデンヌ兄弟監督が、何度もくじけそうになりながらめめたる強さに目覚めていく女性の軌跡を、丹念に描写。フランスを代表する女優マリオン・コティヤールが、サンドラの心模様の移ろいを見事に演じ切り、アカデミー賞ノミネートのほか数々の賞を受賞、観る者ひとりひとりの心にも深遠な問いを投げかける佳篇となった。(映画評論家 服部香穂里)

ゼロサム社会を超えて

本作の舞台とされるベルギーは、移民に寛容な政策のため社会に多様な人種層を抱えており、失業率もここ10年ほど7～8%で推移している。日本の場合、リーマンショック翌年の2009年でも5%程度だ。作中でサンドラが訪問する従業員の中には、質素なアパートに住み、一見してアフリカ系やアラブ系と分かる者もあり、社会背景をうかがわせる。経済のグローバル化の影響も見逃せない。「アジア勢の太陽光パネルと戦うため」に、社長はコスト削減をする。労働コストの安い国に生産拠点を集約する巨大資本に対抗するのは、小さな町工場には容易ではない。そのために最も弱い部分(サンドラ)が標的になった。逆に彼女が生き残るためには、他の従業員に犠牲を強いねばならない。解雇かボーナスかという二者択一は一見シュールに見えるが、現代の資本主義社会におけるゼロサムゲームを象徴している。限られたパイを奪い合うので、誰かの利益が別の誰かの損失となるのだ。同様の事例は形を変えて、世界中で起こっている。他人を犠牲にして自分が生き残ることに罪悪感を覚え苦悩するサンドラが、最後に下した決断に注目したい。(宮下隆二)



© Les Films du Fleuve - Archipel 35 - Bim Distributione - Eyeworks - RTBF(Télévisions, belge) - France 2 Cinéma

「包摂と自律の人間学

—マイノリティ・ボイス=少数派の声—

国立民族学博物館・准教授 鈴木 紀

マイノリティ=少数派であるとは、どのようなことなのでしょう。それは、自分の悩みが周囲に共有されず、寂しさや心細さを感じている状態だと考えてみましょう。そういう時には、自分が何をすべきか判断し(=自律)、必要ならば助けを求める(=包摂)ことが望ましいのですが、なかなかそうはいきません。声に出すと、自分がますます不利にならないか、家族や友人に迷惑がかからないかと気後れします。あるいは直面している問題が大きすぎたり、恐ろしすぎたりする場合には、言葉を飲み込んでしまうかもしれません。今年度のワールドシネマでは、少数派の人びとの境遇を描いた映画を見ていきます。マイノリティの声に耳を傾け、声にすらならない感情に触れてください。その経験が、周囲にマイノリティがいることに気づいた時、そして私たち自身がマイノリティであると感じた時に、勇気をもって行動することに役立つことを願っています。

ご利用案内

- 開館時間 10:00～17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
- 観覧料 一般 420円/高校・大学生 250円/小中学生 110円
*観覧料割引についてはホームページをご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール 「万博記念公園駅」徒歩約15分
*自然文化園窓口で当館の観覧券をお買い求めください。同園内を無料で通行できます。
「公園東口駅」徒歩約15分
*自然文化園(有料区域)を通行せずに来館できます。
- バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「万博記念公園駅(エキスポシティ前)」・「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車 万博記念公園の駐車場(有料)をご利用ください。最寄りの「日本庭園前駐車場」から徒歩約5分
*「日本庭園前ゲート」横にある当館専用通行口をお通りください。



お問い合わせ

国立民族学博物館 企画課博物館事業係
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10番1号
TEL.06-6878-8210 (土日祝を除く9:00～17:00)
FAX.06-6878-8242
http://www.minpaku.ac.jp/
公式Facebook http://www.facebook.com/MINPAKU.official

〈イベント予告〉

中央・北アジア展示が 2016年3月17日(木)オープンします!

シベリアからモンゴルをへて中央アジアまで、多様性に富んだ暮らし、一生を彩る儀礼、シャマニズムやイスラーム、職人の技などを紹介します。リニューアルにともない、関連イベントも開催予定です。